

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎皮質関連検査	2162 17-ケステロイド分画(17-KS7分画) 4D018-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵(28日)	7~8	213生Ⅱ	GC/MS法(酵素水解法)	mg/day 下記参照	酸性蓄尿は避けて下さい。 一日尿量記入 ※02	多嚢胞性卵巣症候群 先天性副腎皮質過形成 副腎癌 Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍
	2160 11-ヒドロキシコルチコステロイド(血中11-OHCS) 4D035-0000-023-282	血清0.5	1	冷蔵	3~7	60生Ⅱ	蛍光法(De Moor変法)	μg/dL 午前10時採血 7.0~23.0	※02	Cushing症候群 Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍 Addison病
	2147 コルチゾール 1321 4D040-0000-023-051 4D040-0000-004-051	血清0.2	1	冷蔵	1~2	127生Ⅱ	CLIA法	μg/dL 3.7~19.4 下記参照		Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍 Addison病 先天性副腎皮質過形成
		蓄尿5.0	35	冷蔵	1~2	127生Ⅱ		μg/day 4.3~176.0 下記参照	一日尿量記入	
	2151 アルドステロン 血漿 4D115-0000-022-005 血清 4D115-0000-023-005 蓄尿 4D115-0000-004-005	血漿0.5	13	(分離後)凍結	3~5	125生Ⅱ	RIA固相法	pg/mL 随時 35.7~240 臥位 29.9~159 立位 38.9~307	※02	原発性アルドステロン症 特発性アルドステロン症 糖質コルチコイド反応性アルドステロン症 腎血管性高血圧症 悪性高血圧症 腎実質性高血圧症 褐色細胞腫 レニン産生腫瘍 Batter症候群 糖尿病性腎症 間質性腎炎
		血清0.5	1	(分離後)凍結	3~5	125生Ⅱ				
	2152	蓄尿1.5	35	凍結	4~8	125生Ⅱ		μg/day 10以下	一日尿量記入 ※02	

[2162] 17-KS7分画基準値 (単位: mg/day)

	男 性	女 性
アンドロステロン	1.10~4.20	0.40~3.00
エチオコラノロン	0.55~2.60	0.30~2.50
デヒドロエピアンドロステロン	0.12~5.20	0.04~2.60
11-ケトアンドロステロン	0.12以下	0.07以下
11-ケトエチオコラノロン	0.04~0.65	0.03~0.50
11-OHアンドロステロン	0.40~2.30	0.22~1.60
11-OHエチオコラノロン	0.03~0.65	0.02~0.65

[2147・1321] コルチゾール測定結果判定法

基準範囲: 血清

検体の種類	検体採取時間	n	95%基準範囲	
			(μg/dL)	(nmol/L)
血清	午前10時以前	150	3.7~19.4	101.2~535.7
血清	午後 5時以降	150	2.9~17.3	79.0~477.8

基準範囲: 尿

検体の種類	n	95%基準範囲	
		μg/24時間 ^a	nmol/24時間 ^b
尿	128	4.3~176.0	11.8~485.6

a μg/24時間 = コルチゾール濃度(μg/dL) × 10 × 24時間に排尿された尿の容積(L)
b nmol/24時間 = コルチゾール濃度(nmol/L) × 24時間に排尿された尿の容積(L)



項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
2166	DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート) 4D090-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	174生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	性別、年齢を明記してください。 ※02	Cushing病 異所性ACTH産生腫瘍 先天性副腎皮質過形成 Addison病 続発性副腎不全

[2166] DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロンサルフェート) 基準値 (単位: μg/dL)

年齢(歳)	男 性	女 性
18~20	24~537	51~321
21~30	85~690	18~391
31~40	106~464	23~266
41~50	70~495	19~231
51~60	38~313	8~188
61~70	24~244	12~133
71~	5~253	7~177

1 プレイン容器



	項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	2208	エストラジオール (E ₂) 4F025-0000-023-051	血清0.4	1	冷蔵	1~2	① 177 生Ⅱ	CLIA法	*1 下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	先天性副腎皮質過形成 エストロゲン産生卵巢腫瘍 卵巢機能不全 閉経

① エストロゲン半定量又は定量については、エストリオール (E₃) 又はエストラジオール (E₂) と同時に実施した場合は算定できない。

*1 薬剤フルベストラントとの交差反応性がある為、真値より高くなる可能性があります。

[2208] 血中エストラジオール (E₂) 基準値 (単位pg/mL)

男 性		39.8以下
女 性	卵 胞 期	19.5~144.2
	排 卵 期	63.9~356.7
	黄 体 期	55.8~214.2
	閉 経 後	32.2以下
妊 婦	前期(1~16W)	135~3916
	中期(17~28W)	1710~15690
	後期(29~40W)	3720~29280

1 プレイン容器



項目 コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件 ・備考	検査目的および異常値 を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	1466 プロジェステロン (プロゲステロン) 4F045-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	151 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	先天性副腎皮質過形成 Cushing病 Addison病 無月経 卵巢機能不全 無排卵
	2206 プレグナンジオール 4F055-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵 (28日)	7~8	213 生Ⅱ	GC/MS法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※02	先天性副腎皮質過形成 Cushing病 腎性男性化腫瘍 妊娠 胎状奇胎 下垂体機能不全 副腎性腺機能低下症
	2207 プレグナントリオール 4F060-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵 (28日)	7~8	234 生Ⅱ	GC/MS法 (酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※02	先天性副腎皮質過形成 Cushing病 腎性男性化腫瘍 妊娠 胎状奇胎 下垂体機能不全 副腎性腺機能低下症
	2210 テストステロン 4F065-0000-023-053	血清0.4	1	冷蔵	2~4	125 生Ⅱ	ECLIA法	ng/mL M 1.31~8.71 F 0.11~0.47	性別を明記してください。*1 ※33	男性ホルモン産生腫瘍 多嚢胞生卵巣症候群 先天性副腎皮質過形成 視床下部下垂体 機能低下症 原発性性腺機能低下症
	4773 フリーテストステロン 4F070-0000-023-005	血清0.3	1	(分離後) 凍結	3~7	163 生Ⅱ	RIA固相法	下記参照	午前中に採血してください。性別、年齢を明記してください。 ※02	男性ホルモン産生腫瘍 多嚢胞生卵巣症候群 先天性副腎皮質過形成 視床下部下垂体 機能低下症 原発性性腺機能低下症

*1 負荷試験の場合は、検査依頼書に負荷時間を明記してください。

[1466] プロジェステロン基準値 (単位ng/mL)

非妊婦	卵胞期	1.2以下
	排卵期	0.3~10.4
	黄体期	1.4~20.6
閉経女性		0.9以下
男性		0.9以下
妊婦	第一期	11.22~90.00
	第二期	25.55~89.40
	第三期	48.40~422.50

[2207] プレグナントリオール基準値 (単位mg/day)

女性	卵胞期	0.13~1.30
	分泌期	0.13~1.90
	閉経期	0.02~0.83
男性		0.13~1.60

[2206] プレグナンジオール基準値 (単位mg/day)

男性		0.16~0.79
非妊婦	卵胞期	0.28~1.42
	黄体期	0.79~6.83
妊婦	前期	1.29~6.08
	中期	3.05~24.22
	後期	9.10~60.51

[4773] フリーテストステロン年齢別・性別における基準値 (メーカー参考値) (単位pg/mL)

年齢	男性	女性
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8
50~59	4.6~19.6	0.8~1.7
60~69	5.3~11.5	
70以上	4.6~16.9	

1 プレイン容器



35 遮光用尿容器



項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	2212 HCG定量 (絨毛性ゴナドトロピン)	血清0.5	1	冷蔵	1~2	① 138 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	妊娠 多胎妊娠 異所性HCG産生腫瘍 子宮外妊娠 絨毛性疾患 流産
	2591 4F080-0000-023-051 4F080-0000-001-052	尿1.0	2	冷蔵		① 138 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	
	2213 遊離HCG-β分画 (HCG-βサブユニット) 4F090-0000-023-006	血清0.5	1	冷蔵	3~5	① 136 生Ⅱ	IRMA法 (RIA固相法)	ng/mL 0.10以下		妊娠 悪性腫瘍 消化性腫瘍 絨毛性疾患 肝硬変 ※01
	1494 子宮頸管粘液中 顆粒球エラスターゼ 3B200-0000-058-062	子宮頸管 粘液	48	凍結 (1ヶ月)	3~5	② 122 尿糞	ラテックス 凝集免疫法	μg/mL 1.60以下	検体採取方法は次ページをご参照ください。 ※02	頸管炎 膣炎 絨毛羊膜炎
	5221 ヒト癌胎児性 フィブロネクチン 5C111-0000-067-023	膣分泌物	110	凍結 (1ヶ月)	3~5	③ 204 免疫	ELISA法	陰性(-)	検体採取方法は次ページをご参照ください。 ※02	破水 早産 切迫早産

① ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β) は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合のみ算定できる。
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量又は半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量及び同半定量は、HCG・LH検査 (試験管法) を含むものである。

② 区分番号「D004」穿刺液・採取液検査「7」の顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液) は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。

③ 癌胎児性フィブロネクチン定性 (頸管膣分泌液) は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。
癌胎児性フィブロネクチン定性 (頸管膣分泌液) 及び膣分泌液中インスリン様成長因子結合蛋白1型 (IGFBP-1) 定性を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[2591] 尿中HCG (単位 mIU/mL)		
成人男子		
女性 非妊婦		
妊婦	~6W	40~86969
	7~10W	16223~885520
	11~20W	1970~627295
	21~30W	1824~154291
	31~40W	1620~184960

[2212] HCG (単位mIU/mL)		
妊娠女性	2週~4週	39.1~ 8388
	5週~6週	861~88769
	6週~8週	8636~218085
	8週~10週	18700~244467
	10週~12週	23143~181899
	13週~27週	6303~97171
	28週~40週	4360~74883
非妊娠女性		10未満
閉経女性		10未満
男 性		10未満

1

ブレイン容器

2

滅菌スピッツ

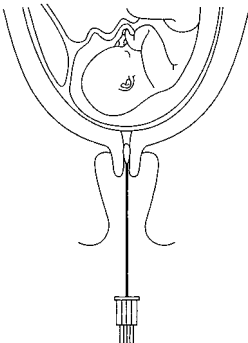
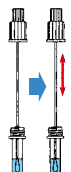
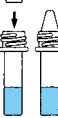
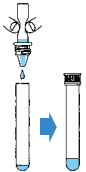
48

子宮頸管顆粒球

110

ヒト癌胎児性フィブロネクチン

[子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ] 検体採取方法

容器形態		採取方法	
48  内 容 抽出液 (リン酸バッファー) 貯蔵方法 室温 (抽出液は冷蔵) 有効期間 1年	正しい採取部位		子宮腔部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。 綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3) 綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4)
	●注意事項 1) 子宮頸管部より採取してください。 2) 検体採取は腔部洗浄前に行ってください。 3) 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。 4) 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いてください。 <採取前> <採取後> 粘液 ○ 固形物 × 5) 採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。 【ご注意】 検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。		
	検査項目	保存	抽出方法
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	凍結	①  抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。	②  頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。
		④  フィルターをセットします。	③  綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。
		⑤  検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴 (約300μL) を分取します。必要量を得られない場合は検体採取からやり直してください。検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵 (8℃) で3日以内、冷凍 (−15℃以下) で3ヵ月以内に測定してください。	

[ヒト癌胎児性フィブロネクチン] 検体採取方法

容器	採取方法		
110  内 容: 抽出液 貯蔵方法: 室温 有効期間: 製造から1年	① 専用綿棒を後腔円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。 ※腔表面を強くこすらないでください。 ※粘液は混入させないでください。 【ご注意】 検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。 ④ 検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。	② 検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌物を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。) ⑤ 検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。 測定試料	③ 綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。 ●注意事項 ・ 検体の採取は腔洗浄前に行ってください。 ・ 検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。 ・ 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。 ・ 検体は後腔円蓋から採取してください。 ・ 腔表面を強くこすらないように注意してください。 （採取後は必ず凍結保存してください）